



美郷町への麻布大学フィールドワークセンターの設置が、内閣府の「大学等サテライトキャンパス設置の推進に向けたポイント集」に掲載

美郷町では、2021年4月に、麻布大学（神奈川県相模原市）が、本学以外で初となる教育・研究施設である「麻布大学フィールドワークセンター」（以下「麻布大学FWC」）を開設されました。

開設以降、地域や県内高校との連携や同施設を会場にオープンキャンパスや県内高校生対象の「縁結び入試」が実施され、昨年12月には、学生、教職員の方が来町し、初のフィールドワーク実習が行われています。また、2023年度には、フィールドワークセンターを組み込んだカリキュラムの大幅改編が予定されており、以降、多くの学生等が入れ替わりで、美郷町に滞在されるようになる見込みです。

全国各地でサテライトキャンパスの誘致活動は数多く行われています。しかし、少子化による18歳人口減少や、その影響により大学等の経営が難しい局面を迎え、大学等の地方進出は一層難しくなっています。また、大学等にとっても地方へサテライトキャンパスを設置する魅力が十分見だせていないという指摘もされています。

こうした中、内閣府地方創生推進室が「地方公共団体向け 大学等サテライトキャンパス設置の推進に向けたポイント集」を作成し、公表されました。

【内閣府 地方へのサテライトキャンパス設置等に関するマッチング支援ポータルサイト】

<<https://www.chisou.go.jp/sousei/about/satellite-campus/point/index.html>>

このポイント集で、全国の成功事例5つを取り上げ、美郷町がその一つとして紹介されています。

開設の経緯やポイント「町担当者と大学教授との20年間の連携、関係性構築」、「町長と大学学部長のトップ同士の直接やりとり」、「地域資源を活用した研究による大学にとっての教育・研究の発展」なども含めて、詳しく紹介されています。

関係機関と連携してフィールドワークセンターの発展を支援し、多くの学生、教職員の方が来町し、町内との交流の活発化や地域経済への波及など、「高校はないけど大学のある町」として町の活性化につなげていきます。

